

党議員団・行政視察

公立保育所の整備 (東京都北区)、公契約条例 (千代田区) など

日本共産党西宮市会議員団は、11月7日から9日までの日程で、保育所待機児童対策で東京都北区の公立保育所整備、横浜市の送迎保育ステーション事業を、公契約条例制定で東京都千代田区、公共施設マネージメントで西東京市の行政視察を行いました。また、民間デイサービス「夢のみずうみ村」(浦安市)についても見学視察しました。

800人を超える待機児童を抱える西宮市では、2016年度から3年間で約1500人の受入枠拡大計画を、民間認可保育所を誘致することで実現させようとしていますが、計画通りには進んでいません。日本共産党市議団では、民間にのみ頼るのではなく、分園を含む公立保育所の増設を求めてきました。

東京都北区では、「子育てするなら北区が一番」のスローガンのもと保育所待機児童解消に努めてきたものの、2016年度当初に232人の待機児童(厚労省基準)が出たことを受け、17年4月には必ず解消したいという市当局の強い決意から、「民間保育所誘致では間に合わない」と、公立保育所3園の開設が決断されました。

いずれも待機児童が多い1、2歳児の低年齢児を対象とする保育所で、1園は中学校別棟の内部改修のみで2016年10月から開園。2園は公有地に建物をリース方式で建設し、17年4月に開園させました。

17年4月には待機児童ゼロは実現できなかったようですが、公立園開設の決断、とりわけ年度途中で公立園を開設したことは、高く評価できるものです。

次に、西宮市でも2019年4月に導入予定の送迎保育ステーション事業について、横浜市の担当者から話を聞きました。駅前などの利便性が高い場所に設置した送迎

保育ステーションに保護者が3歳以上児を送り迎えし、そこから指定保育所(7か所をステーションが指定)にバスで送迎する横浜市の同事業。2011年2園から始まって最大時は5園ありましたが、現在は1園のみに減少。利用者の減少によるもので、市担当者は、「往復1時間のバスでの送迎にはリスクがある」と明言していました。こどもに過度の負担を負わせかねない同事業に、改めて懸念をもちました。



西宮での送迎保育ステーションは……

阪神西宮駅前(エビスタ西宮併設の新ビル3階)に、小規模保育施設(0~2歳、19人定員)と送迎保育ステーション(3~5歳、30人定員)を新設。送迎保育ステーションを利用する児童は、旧高須東小学校跡地(武庫川団地内)に開設される保育所に送迎され日中の保育を受ける。

なお、旧高須東小跡地の保育所は大型駐車場も整備され、車で登園・駐車し、最寄駅から出勤するパーク&ライド方式の保育施設となる。小規模保育、送迎ステーションと同一事業者が運営する予定。

上田さち子氏 議員辞職

8期30年にわたり日本共産党市会議員を務めてまいりました上田さち子氏は、さる10月4日付で議員辞職し、10月10日公示、22日投票の衆議院議員選挙に初挑戦いたしました。兵庫7区選挙区で、36,627票(得票率17.06%)を得ましたが、当選にはあたりませんでした。

党議員としての活動を支えてくださった皆さんに、党議員団としても感謝申し上げます。ひきつづきのご支援ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

「公契約条例」を 今こそ西宮でも

自治体が行う請負工事や業務委託、指定管理協定の業務に従事する労働者の適正な労働環境を確保する目的で、各契約での賃金の下限額を条例で定め、その支払いを自治体に報告させる公契約条例。

東京都千代田区では、2012年区議会での区長答弁に基づいて検討が開始され2014年3月に条例案可決、10月より施行されました。全国では33自治体で条例が制定されています。西宮では過去に当局による研究が行われましたが、条例制定にはいたっていません。